愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

（定價）一枚金三錢一ヶ月分六錢半ヶ年分三拾六錢壹ヶ年分七拾錢全國無遞送料郵券代用（又は五厘切手）一割增
廣告料活字一行四拾錢
本號定價[illegible]

發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

軍人に對する感謝と同情

建國以來二千五百有餘年、日本人として生れ得る の時は少くなかつた、然るに如何なる因緣か我々は此大御代に生れ合せて、國家が振古未曾有の大活動を爲しつゝある時に遇ふ。今後はいざ知らず、是迄の日本人としては今日の者ほど果報な者はない、我々は其仲間である、冥加な者である。これは誰れのお蔭であるか、申すまでもなく　天皇陛下御威德の然らしむる所である、しかしまた實に軍人のお蔭といはねばならぬ。軍人のお蔭て此日本が大日本となつた。これから大活動をなすべき使命を有する大日本の幕開きは、軍人に依てなされた、其幕開きたる實に花々しい立派なものであつて、擊柝の音は世界に鳴り響いた、是迄數百年間駄目だと見限つて寢て居た「東洋の歷史」が驚いて目を醒して見ると、東の空は眩く程の光である、永く閉された天の岩戶が再び開かれて、光輝赫々たる旭日が新に昇り出した。「東洋の歷史」は見て活かへつた、久しく「西洋の歷史」に踏潰されて居た面目が俄に揚ツて、なに東洋がと侮つて居た「西洋の歷史」は却て顏色がないやうになツた。世界の歷史に遼陽の占領、沙河の擊退、旅順艦隊の破滅に匹敵するほどの出來事が幾らあるか。我軍人のお蔭で、日本の歷史、否東洋の歷史が活きて來た。我々國民は實に何というて軍人に感謝すべきか、辭の出づる所を知らぬのである。志かしこれだけのことは中々容易には出來ぬ、我同胞軍人の肉と血が之を買ふたのである。我軍人は唯國家あるを知ッて我あるを知らぬ、故に其行動たる常に壯烈である、我々は今始めて眼の當り眞面目、偉大といふものを、我軍人に於て見ることが出來た、千萬の學校や修身書はあるが、是程の感化は國民に與へぬ、我軍人は實に大なる活きた教訓を示した、今日の子供、未來の國民は、軍人の壯烈から何れほどの感激を受けたか、殉國の軍人の精神は、其數十倍、數百倍、數千倍の若い後繼が、確かに受け續いだ。今日日本は武力に於て强大となつたのみならず、國民の精神は此二月八日以來實に見かへるほど確かに、旺んに、强くなつて來たのである、國家としては是程目出度いことはない、これといふも全く軍人のお蔭である、軍人が野に伏し、山に寢ね、日に曝され、雪に弄られ、丸の雨を冒し、劍の霜を踏んて、笑うて死ぬるお蔭である。されば我々は出來るだけの事をして、之を慰め、又後顧の憂なからしむることを努めねばならぬ、これは內に殘つて居る國民の義務である。今や寒氣身に砭する候出征軍人の艱難苦勞は如何計りであらうか、數十万の軍人は氷結せる塹壕の中に起臥し、風雪の中に夜通し立つて居る步哨、氷柱下がれる甲板に夜を徹する哨兵もあることを思へば、夜具にくるまツて寢るのが濟まぬやうな氣がする。何うか愛國婦人會員も誰れも、國民は出征軍人の勞苦を思ひ、物品なり書狀なりを送つて、其心と身體とを溫めるやう願ふのである。終りに出征軍人が、勇ましく本年を送り、大なる希望ある新年を健康を以て迎へられんことを祈る。

あはれ名譽の花

評議員　三輪田眞佐子

朝の露と消え、夕べの煙と立つてこそ、人生の習なれば、今更、蓬萊山にわけ入りて、不死の藥を求めんとするは、識者の笑を免れざるべし。唯、人生の大問題は、如何にして死し、將た、如何なる目的のために、死するかにぞありける。若し、武士たる最後を遂げ、丈夫たる本分を全くして倒れんか、秋毫も恨むところなかるべし。恰も、彼の爛熳たる櫻花が、一陣の嵐に散らさるゝは、惜むべしといへども、木下蔭の雜草が、花てふ花を開くことなくして、漸く秋霜まで長らへつゝも、倘芥となるに勝ること幾何ぞや。

固より、人は木石にあらざれば、病床に臥する妻を思はざるにあらず、饑餓に泣く兒を思へざるにあらずと雖も、大義名分のため、死をば鴻毛よりも輕からしむるのみ。故に、わが日本帝國の軍人たるものが、苟も征路に登るや、悉く、かへらじとかねて思ふ小楠公の心を以て、心とせざるはなし。これ戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取る所以にこそ。古人曰く、文臣錢を愛せず、武臣死を惜まず、以て天下平かならんと。實にわが國今日の

母の教育

丁抹、コーペンハーゲン市博物館所藏

名譽あるは、武臣の死を惜まざるに由るならんかし。

されど、敵て邦家のため、死を惜まずして、滿洲氷雪の野に穴居する、出征者を思へば、暖き食に飽き、厚き衣を纏ふに忍びざるべし。茲に於て、老も少も男も女も、一つ心を以て、出征軍人の後援たらんことを、期せざるはなし。わきて、我が愛國婦人會員の如きは、擧りて軍國婦人の本分を盡さんと、誓はざるものはなからん。

抑も、今は千歲一遇の時ならん、邦家興亡の相岐るゝ秋ならん。故に、手のあらん限り、足のあらん限り、誰か御國のために、出てゝ戰ふを厭はざらん。否、心のあらん限りは、敵を平げてやは止むべき。されば、目下敵彈に倒るゝものは、慘なりと雖も、名譽の花と散ると言はんも可なり。如何となれば、武士として、丈夫として、死すべき死に、死すればなり。こを以て、凱旋たるものも、普通、寒暑のため、平凡の死を遂ると、相異なりて、名譽の花の香は、子々孫々と、永遠に相傳ふべければ、大に慰むるに足らんか。思ふに、德必ず隣あらん理なれば、斯る名譽の花をして、單に墳墓に咲かしむるのみならず、必ず、其の家庭に輝てをして、これを廢さしめざるへからず。

滿洲の野べまで匂ふしき島の
やまと島ねのやまざくら花

常宮昌子內親王殿下

出征の將卒を思ひ遣りて

くにのためいさむ心はもゆるとも
なれぬさむさに肌やこほらむ

周宮房子內親王殿下

浦安のくにをはなれていくさひと
ゆきにふすらむもろこしか原

本會總裁　閑院宮妃勳一等智惠子殿下

日露戰爭につきて

ふないくさかちつゝきたる御いさくは
くかにもあたをうちや盡さむ

本會名譽會員　山階宮妃勳二等常子殿下

折にふれたる

朝夕にかみにむかひていくさの
かつことをのみ祈るころかな

本會名譽會員　賀陽宮妃勳二等好子殿下

いくさ人つるぎいよ〳〵とぎ磨き
しこのしこくさかり盡してよ

本會名譽會員　梨本宮妃勳二等伊都子殿下

日の御旗うらるの山に押し立てゝ
君が代うたふときは來にけり

伏見若宮妃勳二等經子殿下

とつ國の海路はるかにひゝくらし
わかみいくさのかちときの聲

久邇宮絢子女王殿下

遠征軍をおもふ

君が爲とらふす野邊のゆきふみて
仇まもるらんますらをのとも

待旅順口陷落

かの港あたのまもりのかたくとも
攻め入らん日はほとやなからん

電話番町五百二十番　◎本號には附錄として東京支部裁縫部作業の寫眞を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎兒童公德修養事業

内務省書記官　井上友一

◎公共心養成　私が公共心養成の必要なる事を唱へて居るのは久しき以前の事であります。此に御話しするのは紐育市アッペー夫人の計畫にかゝる兒童公共心の振興を目的とする風化事業の事であります。今から三年前に紐育の市政が亂れた時に夫人が一策を考へ出して且つ思ふには市政の改善は市民の啓發に俟たねばならぬ然し市民の啓發は先以て兒童を訓育して其公共心を振興するが一番上策である何故かなれば大人は皆頭が固くなッて居ッて、容易に持論を更へる事か出來ないから將來市民たる人を撫育し誘掖するが一層有效であると考へた、

◎人の歴史　我が子の立志成業を祈らんとするには必ず告ぐるに其祖先が遂げたる名譽ある事業幷に祖先が達せし高貴の地位とを以てして如此勳功と名譽とは畢竟其品性德業の偉大なるものありしに基因する事を知らしたならば其子供等は假令祖先の眉目に接しないでも感奮の念激興の氣輙ち油然として生じ先人より受けたる遺業を守るのみでなく進んで之を發達せしめ後世をも益せしめやうと思ふに違ひない此道理は市民が市に對しても同一であると夫人が考へた

◎市の歴史　都市の歴史は人をして感奮興起せしむる材料に乏しくない若し少年子弟が一度吾都市の歴史を繙いたならば祖先の名譽ある事業を嘆稱すると等しく遂に其都市を尊重するに至るであらうついては市史の研究を少年兒童になさしむるに若かずとて遂に紐育史學倶樂部なる者を設立する事になつた同倶樂部の教師は都市の歴史に事蹟を留むる偉人の肖像を具へ之に就いて講演を開き又實地に臨みて其事蹟を説き一層興味を添へ市民の兒童をして高尚偉大なる資料を享ける處となした自分は公共の行政として斯樣な事を施設されたものが他にあるを聞かない日本の婦人も如斯風化事業に盡力せられん事を大に望む處である。

◎十分談片

◎評議員高木鐐子氏　歳末年始の贈答は實際虛禮に屬して居る事で誰しも改良したいと考へて居る事柄でありますが舊慣と申すものはひどいもので容易に廢止改良する事は出來ません併し本年のやうな戰爭の時に於て内地で贈物の取りやりをして虛禮とは知りつゝ舊慣を趁ふの必要はないと思ひます然し毎年送る處へ送らぬのも妙でないと思ひますから其費用を以て出征兵士に物品を送り毎年贈る可き家へは今年は斯樣に致しましたから贈りませぬと云ふ事を通知したらそれでよからうと思ひまして主人とも相談して時事新報の福澤さんに御話致しました處が同社でも皆さん贊成されたものと見えて翌日の紙上に早速披露が出ましたから私共では卒先して毎年歳末贈答用の費用だけを寄附する事に致しました斯樣にすれば自然虛禮廢止の一方法ともなり一方には年末年始の隔てなく戰ふて居られる兵士方を慰藉する事が出來所謂一擧兩得かと思ひます

◎伯爵柳澤保惠氏　自分は贈答廢止は數年來實行して居る日本では人に贈るのでは無くて家に贈るのである元來贈物の主旨は其人の嗜好に適した物を選んで贈ッてこそ始めて其意を達する譯である自分の邸内には椎の樹が貳本あるが皇后陛下が椎の實が御好きであるとの事を聞いて居るからこの實を採收して毎年獻上して居るが其他は一切贈らぬ事にして居る先方から贈られても返さぬ事にして次第に此弊風を破つて居る次に話しが替るが自分が此度始めて貴族院に還入ッて見て不思議に感ずるのは社交的の倶樂部がない事である政派は色々別れて居るから議場に於て互に意見を鬪はし敵味方と別れるのは宜しいが議場を放れては個人として互に圓滿なる交際が行はれなくてはならぬ政派が分れた爲に私交上にまで隔りを惹起すやうでは政治上に於ても運用の妙を得たものと云ふ事か出來ぬ故に自分は近頃同志の人々と相謀ッて一の社交倶樂部を組織した追々には家族も連れて集まる事が出來る會になると信ずる

◎子爵谷干城氏　敵國には婦人でも陣中に在ッて働いて居る現に旅順では主將ステッセルの夫人は夫と共に大に働いて居るではないか之に對しても日本婦人の働きは實に鈍いと思ふ各女學校に於ても伊勢物語や源氏物語を習うて居る時代ではない學科なども廢して仕舞ッて軍人の服でも縫ふがよいと思ふ殊に男子の學生の意氣はどうであるか大學連の先生達が主戰論などを主張して置いて今は何處に隱れて居るか元氣が無いではないか學生の團體にて一軍を作ッて繰り出す位の計畫が無くてはならぬ事と思ふ今や敵國は第三の動員令も下しバルチック艦隊も來航しつゝある時機に際して國民の思想は餘り呑氣であると思ふ勝つ時の事計り考へて負ける時の事を考へぬやうではならぬ

◎男爵松平正直氏　私は日本今日の國情からして婦人に男子と同樣なる高等なる學藝を授けると云ふ事は贊成出來ないのである何故なれば形而上の科學は善く出來ても其内容たる精神が歐化して仕舞ッては子を育てる上に於ても日本の固有なる武士的精神を注入する事が出來ない今日日本が露國に勝ッ所以は數千年來蓄積せし日本武士道の發顯せる結果である此武士道は何に依ッて養成されたかと云ふに武士的家庭の賜であると云はねばならぬ日本には如此忠孝仁義の教へがあるのであるから將來國民の母となる可き婦人は高尚なる科學の研究よりは先づ以て精神の修養が大切であッて品性の高き母を作る事が必要であると思ふ

◎吳文聰氏　一家の家計費目の内で西洋に無くて日本にのみあるのは養親費である何れの國體でも親に贈ると云ふ金が餘程多い是れは日本の國體たる孝養の原則から出て居るのであるから敢て咎む可き事柄ではないが之に從ふて親族の人まで養はねばならぬ事になッて居る老人は善く云ふ私が死んだら親類でどうにかしてくれるであらうと親族を丸で生命保險會社見たやうに思うて居る故に一族の内で良く働くものがあッて金も貯へ頭を少し社會に出し掛けるやうになると諸方から親類が寄り集まッて分捕りに來ると云ふ有樣である如斯は社會に貧富の懸隔を作らぬ手段としては宜しいかも知れぬが個人としての發達を非常に妨害する譯である是れは畢竟國民の依賴心が強いのに原因するので人に賴るのを恥と思はぬつまり獨立獨行の思想が乏しいからである年が寄ッても働かれるだけ働いて人に世話にならぬと云ふ精神が一般國民の上に必要な事であると思ふ

◎農商務省會社課長松岡辨氏　私は酒も飲まず煙草も飲まず別に道樂はないが家庭の樂みを享けると云ふ事は人生唯一の快樂であると深く信じて居りますから家庭の改良と云ふ事には專ら力を用ゐて居ります私は本年の春まで洋行して居りまして諸外國の家庭の内で英國の家庭組織が最も完全して居ると思ひますから成るべく英國に範を採る積りであります第一衣食住の改良から行はうと思ひまして子供に洋服を着せる事にしました西洋から新式なる服の形を持ッて歸りまして家内に自から製作せしむる事に致して居りますが洋服の方が經濟上にも餘程利益であります私の洋服が破れたら仕立直して子供に着せる事も出來て廢物利用にもなります其他編物も西洋から雛形を取り寄せまして自分のシャツ靴下はもとより子供のものまで一切家の内で調へ其餘力で閑の時間例へば人と談話する等の時間を利用して慈善の爲に編物をして居ります又家庭には宗教が必要であると考へます家庭の亂れるのは多く宗教が這入ッて居らぬからと考へますから一週間に一度は家庭で宗教談を聞く事にして居ります

◎佐藤正氏　吾輩は戰況の載ッた新聞を讀む度毎我が兵士の勇壯なる働作に感激し且其慘狀を追想して新聞の一段を終りまでよく讀み得る事が出來ない只涙あるのみである此間も長谷川大將に遇ふて戰地の實況談を聞いたが我が兵士の勇敢なる擧動には指揮者も涙を以て指揮して居るとの事である現に或輸卒が手紙を以て司令部に來た處が返事は格別必要でない途中が危險であるから師團長が證明書を與へるから司令部に一泊して歸れと云ふた處が其輸卒は之に應じない是非歸ると主張するから何故であるかと尋ねたら今は戰爭中であると答へた此痛切なる一語に對しては司令部の將校も肅然として互に相見て無言であつた如此有樣であるから將校も兵卒と共に死なねばならぬと大將が涙を流して話して居られた實に士氣の盛んなる思ふべしである

子守謠

6—65|6165|
ばうやは よいこじや

035161|5—、0|
ねんねしー な

1—21| 2365|
ばうやの おもりは

0—231 2—、0|
どこへいた

◎日露戰爭に關する雜感

評議員　鳩山春子

明治卅七年十二月十日發行の征露戰報第三十五號に特派員旅野摩天氏が旅順の要塞に就き詳細に陳述せられたるを熟讀し私は覺へず悽愴沈痛の感に打たれました此地に於て徒らに陷落快報の傳へられん事をのみ待ち居るものは必ずまづ此記事を讀み我攻圍軍人の慘劇如何に著大なるかを了知されん事を望みて止みません殊に同情の念に富む日本婦人は必ずまづ此記事を一讀せらるべき必要を感じます。

赤裸々たる坊主山の山腹に僅に坑道を作り小穴を穿ち漸くに身を隱蔽する處の將士の苦痛は如何でありませう薪水は遠きは一里餘近きは十數町の彼方より運搬し糧食は無論遠き山下より運搬せざる可からざる苦境に在りと申します夜な〳〵吹きしきり猛り狂へる暴風雨の中を岩かげに取りつき餓飢しつゝ粛々として前進する艱苦は如何でありませう

敵が十年間の歲月を費し巨億の資を投じあらゆる最新の學理技術を利用し最新の防禦術を無類の天險に加へたる金城鐵壁に向つて肉身を注いで之を攻陷せんとする千丈の谷地に瓦礫を投じ之を埋却せんとするが如しとまで陳べてあります嗚呼何たる悽愴悲慘の極みでありませう

然れども旅順は攻陷せざる可からず我忠勇無比なる軍人は此至難なる要塞攻擊に或時は進擊突貫狂氣の如く猛進し敵の爆烈彈の爆發のため肉塊骨片四散するの慘死に遇ひ或時は雨と注ぐ敵火を犯し殪るゝ味方を踏み越え躍り越え息をも繼かず突貫したるも敵は死力を盡して防射し戰機の發展思ふに任せざるの恨事ありたりと申します

二〇三高地の第一回攻擊は實に九月十九日午後二時に始まり爾來幾多の名狀すべからざる慘苦を忍び十一月三十日午後八時に至り遂に此高地全部を占領するを得たのであります

此天嶮が如何に我勇將猛卒を苦しめたるかは實に想像に餘りある事であります而して今日は遂に我軍の有に歸したるは事實上半旅順陷落と見るべきものにして攻圍軍の勇敢眞に激賞するに堪へたる次第であります

然れども倘標高四〇〇餘メートルの老鐵山あり旅順新市街と老鐵山下には倘既設四箇の砲壘及び新築設中の砲臺數多ありと云へば我攻圍軍前途の勞苦誠に察すべきであります

同情を以て特性とせらるゝ我國婦人は一たび此旅野氏の記事を讀まれんには必ず奮起して此忠勇無比なる我軍人に滿腔の同情を表し之に酬ゆる道を考へらるゝ事は信じて疑ひません

今回の日露戰爭は實に我國千古未曾有の大事なれば之を日清戰役の際に比して我國婦人の奮發振起さるゝ事も著しく國家的思想の發達空前の事とは信じますがたゞ遺憾に思ひますのは斯く愛國事業に盡さるゝ方は常に或有數の婦人に限り未だ日本婦人全體に普及せざる事であります

人生の四期

丁抹コーペンハーゲル市トルアルドセン美術館藏トルアルドセン作

人々各々其境遇に應じたる務あれば餘裕なしと云へば誰しも同じ事ながら人間として婦人として爲さゝる可からざる事と思へば幾分の金と時とを寄附し得る婦人にして未だ何等軍國のため軍人の家族遺族のため盡されざる方も多々ある事と考へます斯る御方は何卒前記旅野氏の記事は勿論一般戰地の實況を了知し旅順と云はず滿洲と云はず我出征軍人の辛酸苦痛を洞察せられ愛國のため其身を犧牲に供されつゝある我精鋭强武世界に冠絶する忠勇無双なる軍人をしてせめては後顧の憂なからしめん事に盡され苟も衣食に足るものにして軍國のため何事をも爲さゞる如きは婦人の特性に悖り良心に安んぜさる感を懷るゝ迄に愛國心の普及されん事を希ひて止みません

出征軍人に後顧の憂なからしむるは勿論の事なれとも倘出來得る限り此忠勇なる軍人を慰めんために寸暇と雖も心に懸け技藝を勵み軍人に寄贈すべき事と考へます此事に就いては西洋婦人は談話の際又は集會の席聽講の時間にも常に編物せらるゝを見受けます况して我同胞のためなれは日本婦人たるもの各自心にうけたとひ壹人壹貳個にても普く婦人が此擧に出てられん事を深く希ひます

史傳

武俠婦人（留守の妻）

須藤求馬

今は昔江戸時代の初、加州金澤の家中に濱田貫といへる士あり。貫の江戸在番の留守中妻田鶴子產をせしが、また七夜もたゝず產屋の枕にかゝり居けるに、一日健かなる若き男、血刀をひつ提げ產屋へ驅込み、拙者儀口論の上、堪忍なり難き儀あり、朋友を討てたちのき候處に、跡より追手かゝり、既に危き處を切拔けこれまで參り候御屋敷を見かけ御門內へ驅込候へども、折節御家來衆も相見えず、申入べき便りもなく、追手火急に候間、無躾ながらこれ迄推參いたし候。拙者願ひある身に候へば、一先づ命を全う致し度候、何分御匿ひ下され候はゞ生前の御恩かたじけなしと息つぎあへず申ける。

田鶴子きゝとり、私は夫江戸參勤致し留守にての間產をいたし、かく取亂し居候。委細の儀は存ぜねど、この屋敷を見かけ御賴に候へばいなる程かくまひまゐらすべし、こなたへ來り給へと、かひ〳〵しく取はらひ、我が凭りかゝれる枕の背後へ入れおき、衣うちかけ、元の如く凭りかゝり居たりける。然る處へ武士四五人どや〳〵と押込、部屋の口へ立はだがり只今この屋敷へ人を討つたる者にげ込だり、早々これへ出し候へとのゝしりける。田鶴子はねむれる體にて目を開き居直りて見れば各は武士方と見受候ふが、主人の留守と申し、案內もなく屋敷へふみ込み、その上女の寢間まで入込み、無躰の事を言ひかけ給ふ。夫は小身ものゆゑ、漸く下女一人めしつかひ、江戸在番の留守中に、殊は產後の惱みにて、かやうに枕もあがらず、わが身さへ自由ならざるに、さやうの人をなにとて隱し置くべきや、裏にも出口あれば、若しや通りぬけたるかも知れず。それは兎も角。各異の武士ならば、武士の作法は御存じあるべきに、女子ばかりの處へ案內もなく押込み、その上女の寢間までふみ込み、無禮なるふるまひ、御どなたの御家中にて、御名はなにと仰せらるゝ方にて候や。何とも法外なるしかた、不屆の至りなり、女なれども武士の妻、その分には成り難し、一人も返へしはせじと、あり合ふものにて鉢卷しめ、たち上り小褄引あげ、承塵にかけたる長刀の鞘はづし小脇にかい込み立向ふ。追手の者ども大に驚き、皆一同に平伏し、仰せの段々至極せり、我々心のせくまゝに重々の無禮、殊に御產屋をさわがせし段、無調法至極、一言の申譯もなき仕合、眞平御免下さるべしと言はせも果てず、いや〳〵それは御卑怯なり、無禮も無調法も眞の武士ならば先達て知るべきはず。それを知らぬは、實の武士にあらず。女子ばかりと知つて物取らんとの事か、盜賊の惡名を受くるがいやならば、立ちあがつて勝負しや、とせりかけ〳〵つめ寄すれば、いやはや、いかやうにおほせ候とも、手向は仕らず、お匿ひなきだんも見屆候、無調法の段は、幾重にも御免御免と尻込して、はふ〳〵の體にて逃げて歸りぬ。漸くなりもしづまり夜に入りければ、件の男を出し、今宵はこれにと申度は候へども、御覽の通り女子ばかりの住居なれば、夫への義理、世間の遠慮、旁御留め申がたし、裏口より忍びて御出いづかたへも御落着き候べしと、人を討ちし樣子、相手の名、その者の姓名等をとくと聞き糺し、湯漬などしたゝめさせ、下女を出し門外の樣子を見せ、怪しき事もなければ、道の案內を敎へ、裏門より出しやりぬ。かの男あまた度頭をさげ、活命の恩を厚く謝し、產婦の働きを感賞し、暇乞して出て行きぬ。その後下女へもかたく口止めして、さりげなき風情にてすぎ侍りぬ。天晴武士の妻也と、聞く人歎賞して止まざりしとぞ。

誠に窮鳥懷に入れば殺すに忍ひずとかや、さして人をや。田鶴子の振舞は、いかにも武士敎育の結果が機に觸れ發揮せられて餘りあり。男子も及び易からざる、振舞實に嬌々たる俠骨ならずや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎本紙本年中の要目　本年中本紙が各方面の知名の紳士淑女より得たる處の論說及談話の要目左の如し

◎婦人と慈善事業(四十五號)　男爵 松平正直
◎新年の所感(四十五號)　陸軍歩兵少佐 堀内文次郎
◎會員に對し希望を陳ぶ(四十六號)
◎時局に對して會員諸君に望む(四十六號)　男爵 清浦奎吾
◎日本全國の姉妹方に急告す(四十六號)　陸軍歩兵少佐 堀内文次郎
◎評議員方に望む(四十七號)　公爵夫人 岩倉久子
◎風俗改良論(四十七號)　子爵 岡部長職
◎女子と國家(四十八號)　内閣統計審査官 呉文聰
◎岩倉公爵夫人と坊城伯に告ぐ(四十八號)　文學士 下田次郎
◎愛國婦人會員に告ぐ(四十九號)　歩兵少佐 伊豆凡夫
◎再び會員に告ぐ(四十九號)　公爵夫人 岩倉久子
◎日露の關係を述べて日本婦人の覺悟に及ぶ(四十九號)　男爵 清浦奎吾
◎戰時に於ける婦人の覺悟と修養(四十九號)　歩兵少佐 堀内文次郎
◎戰時に對する婦人の覺悟(五十號)　子爵 松井直敬
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十號)　評議員 鳩山春子
◎日本が戰爭に勝つ所以(五十號)　文學博士 村上專精
◎愛國婦人會第三回總會に於ける演說(五十一號)　衆議院議員 島田三郎
◎三輪田女學校卒業式演說(五十一號)　子爵 小笠原長生
◎婦人に留意の必要(五十一號)　伯爵 大隈重信
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十二號)　内務省衞生局長 [illegible]
◎女子大學卒業生に告ぐ(五十六號)　評議員 廣岡淺子
◎戰時の婦人(五十二號)　女子大學校長 成瀬仁藏
◎岩崎家の家庭(五十三號)　日本陸軍歩兵少佐 堀内文次郎
◎儉約の意義を誤解する勿れ(五十三號)　子爵夫人 谷くま子
◎女子の戰爭(五十三號)　農商務次官 和田彦次郎
◎戰時の女子(五十四號)　評議員 有島幸子
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十五號)　文學士 下田次郎
◎出征軍人家族慰問の狀況(五十四號五十五號)　男爵 清浦奎吾
◎讀者に就いての談(五十四號五十五號)　子爵夫人 岡部坂子
◎軍人の遺族及び家族慰問に對する注意(五十四號)　評議員 鳩山春子
◎余は極力儉約說を主張す(五十五號)　評議員 濱尾作子
◎婦人報國の微意(五十五號)　子爵 谷干城
◎戰時の衞生(五十五號)　評議員 山地嶽子
◎戰地の看護婦の事情(五十五號)　濱尾作子
◎風俗改良論(五十六號)　マギー夫人
◎日本人の消極的思想(五十六號)　伯爵 板垣退助
◎遺族扶助に關する統計(五十六號)　子爵 小笠原長生
◎婦人と讀書(五十六號)　伯爵 柳澤保惠
◎英國の篤志婦人リチャードソン(五十六號)　ミス、ウエストン
◎夫人と社交(五十六號)　ドクトル夫人 川瀬フミ子
◎日本は何故に强きか(五十七號)　子爵 長岡護美
◎加納子爵の家庭(五十七號)
◎倶樂部と遊戲(五十七號五十八號)　伯爵 大隈重信
◎新學の女子に告ぐ(五十八號)　醫學博士 三宅秀
◎信用組合の話(五十八號)　伯爵夫人 大谷紡子
◎日本の女性に就いて(五十九號)　子爵夫人 加納鈺子
◎女らしくあれ(五十九號六十號)　元農商務省保險課長 矢野恒太
◎辨乃の語(五十九號)　文學士 下田次郎
◎安全なる貯蓄方法(五十九號)　日本女學校教師 小松崎おきん
◎婦人と衞生問題(五十九號六十號)　林學博士 川瀬善太郎
◎旅順の陷落と好紀念(六十號)　留岡幸助
◎支那の女子教育(六十號)　内務書記官 井上友一
◎貯金をして金を貯へる工風(六十號)　文學博士 服部宇之吉
◎凱旋軍隊の歡迎(六十一號)　加藤病院長 加藤時次郎
◎戰爭の紀念(六十一號)　海軍中將 有地品之允
◎歐米婦人界現況(六十一號)　内務書記官 井上友一
◎男女交際論及娼妓廢止論に反對す(六十二號)　文學士 下田次郎
◎支那の貴婦人(六十二號)　子爵 谷干城
◎戰爭に依つて得たる經驗(六十三號)　文學博士夫人 瓜部しげ子
◎歐洲婦人界と日本婦人界(六十三號)　評議員 鄕濱子
◎勇猛なる軍隊に就て(六十二號)　ドクトル夫人 川瀬ふみ子
◎敢て婦人に檄す(六十四號)　子爵 小笠原長生
◎軍人家族遺族保護事業について(六十四號)　評議員 廣岡淺子　留岡幸助
◎軍隊寄贈袋について(六十四號)　評議員 仁杉歐子
◎東京支部の新事業(六十四號)　男爵夫人 千家俊子
◎米國上流の家庭(六十五號)
◎英國の家庭と我が家庭との比較(六十五號)　男爵 松平正直
◎監獄と婦人(六十五號)　十五銀行頭取 園田孝吉
◎我國古代に於ける女子の從軍(六十五號六十六號六十七號)　監獄事務官 小河滋次郎
◎生產組合の話(六十六號六十七號)　農學博士 酒匂常明
◎婦人の活動(六十七號)　評議員 廣岡淺子
◎模範村の話(六十七號)　内務省地方局 相田良雄

◎貴婦人の自白

(來年より改良せんとする事柄)

◎私の針箱の中や手箪笥の内は主人始め家族の者誰れ一人にも見せる事が出來ません別に秘密を納めて居るのではありませんが種々混雜に入り亂れて自分が或一物を出すにさへ多少の考へと時間とを要する程であります來年からは改めて整然として誰にても見せられるやう致したいと思ひます

◎私は一の仕事に取懸ると其仕事の未だ終へぬ内に他の仕事に移り聽て又それも打捨て又他の仕事に移り一日ごた〳〵して多忙のやうでありますが其實何事も出來て居らず年末に大繁忙を來たしました來年からは一時に一事を爲す事に斷然定めたいと思ひます

◎私は今日爲さねばならぬ仕事であッてもつい面倒になり明日にても出來ると云ふ考へよりして翌日に仕事を延はします又同一の理由で翌日も延はし遂に仕事が積り積つて山程により年末の今日如何様とも整理が出來ぬ事になりました來年からは其日に爲す可き事は決して翌日に延ばさぬ事に致したいと思ひます

●私は面倒で手數の懸る仕事となると常に後廻しにして居りました處が誰れも代ッて仕事を片付けてくれる者がありませんから毎日仕事が溜まッて責任が重くなるを覺りました來年からは面倒なる方より早く片付ける事に致したいと思ひます

◎私は遊ぶ時間が惜いと云ふ考へよりして遊ぶ時間として別に定めて居りませなんだ故に働く内に遊び遊ぶ内に働き常に怏々として居りました結果仕事がはかどらぬ事を覺りました來年からは遊ぶ時と働く時と斷然區別致したいと思ひます

◎私は人から物を頼まれるとつい「否」と云ふ事は云ひ兼ねまして自分の身に餘る事すら容易に請負ひまして後に出來ないで赤面する事が往々あります來年からは始めより出來ない事は「否」との一語を以て答へる考へであります

◎私は主人から或困難なる仕事を命ぜられますと其困難に打勝ッて成し遂げて見ようと云ふ男氣がなく常に無理な注文であると思うて不平を申しますまかし斷然やれば如何なる事でも出來ない事はないと覺りましたから來年からは先づ之を試むると云ふ決心であります

◎私は今日は家に不用な品でも後日入用になるだらうとの考へを以て廉いと思ふ物を買込む事があります太物屋の賣出し等にはいろんな物を買ひますが年の暮に至ッても役に立つた事がありません來年からは如何なる廉物でも入用な者で無くては買はぬ事と決心致しました

●新案家計簿記入方(カルタ形記入法)

内閣統計局審査官　呉文聰

西洋では簿記法も既に古臭くなッて來て近頃ではカルタ形の簿記式が發明されて盛んに行はれて居る世が繁雜になッて來るに從つて段々と簡單なる記帳方法が發明されて來るそこで一家に於て主婦が擔任して居る家計簿の記入方であるが如何に簡便なる帳簿が出來て見ても之に間違ひなく記入すると云ふ事は困難な事である何時でも勘定合うて錢足らずて帳簿に記入落が出來る每晩記入するとしても多少の考慮に時間を要する左らばと申して帳面へ付けた上で財布の紐を解くと云ふ事も間合はぬ話しである故に私の新案と申すは以上の手數を省いて正確に計算が出來る方法を敎へやうと思ふのである夫は最初に於て左の如き費用の科目別をした袋を作ッて置くのである其袋の代りに抽出しの澤山附た小簞笥を室に備へて置くもよい又別に西洋紙をカルタ形に切ッて幾枚も作ッて置き其カルタ紙に金を支拂ふ度に支拂金額を記入して其袋の中又は箱の中に投入して置くのである(金額だけは記入して科目は記入しないでよし)さうして一ケ月の終りに至ッて其の袋から出して記帳すれば決して間違ふ事なく手數も非常に省ける次第である各科目の札を計算して見て其科目に多くの出資があると見れば其科目に多く札を入れぬやう翌月から注意して金を使用するやうにするのである左表はエンゲル氏の作ッたものに依ッたのであるが西洋になくて日本にあるもの即ち養親費などは別に設けたらよからうと思ふ其他成るべく費目別は少くする方が便利である

家計支出科目一覽

食料	米、肉類、穀類 野菜類酒料
衣料	洋服日本服小供用大人用
住家料	借家料借地料
燃料點燈料	薪、炭、油
衞生費	
敎育費	智能開展ノ爲 德義開展ノ爲
租税	
慰安費	

◎泰西婦女訓

◎人は階級の如何を問はず成功にも失敗にも勝つも將た負くるも唯一意其職分を履行して滿足せよ

◎汝の手にて爲すべき事あらば其力の能ふ限りこれを爲すべし獅子は鼠を捕つにさへ其全力を用ふ

◎肉體は朽ち去りて姿を止めざるも善行は長しへに滅ぶる事なく人の世の續かん限り生くるもの也

◎自ら信じて事を爲さんとするには世の反對攻擊に屈せざるの勇氣あるを要す所信に斷行して懼るゝ勿れ

◎意思の堅固なる婦人は爲す事成す所に斷行し凜乎たる氣内に滿ち不屈不撓は其習慣を成し其感化は偉大也

◎幾多の障害苦痛が我等の前途を遮ることあらばそは天が我等を試みむために下したるものと思へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎新年の評議員會　一月十一日例年の年始互禮會を兼ね評議員總會及東京支部幹事會を開く筈なり

◎評議員會　去にし十四日午後二時より評議員會を開けり當日は非常の降雪なりしにも拘らず雪を冒して來會せらるゝもの非常に多く會長岩倉久子理事近衞貞子谷玖滿子評議員二條治子松平節子岡部鉦子千家俊子清浦錬子中山幸子廣岡淺子高木鍱子杉溪茂子堤常子松浦島子濱尾作子山脇房子關郁子有島幸子柳谷千代子片山鎌子佐藤猶子岩佐純子仁杉歌子奥村五百子長岡芳子藤井とく子澁谷和知子松平須磨子鄭濱子の諸氏にして三十八年の豫算案を議決し午後五時過ぎ散會したり

◎故近衞公爵の肖像　本會の創立に對し非常に盡力せられたる故近衞公爵の肖像を畫き紀念の爲之を本部に掲ぐる事となせり筆者は小笠原子爵の令弟にして頗る美事に出來上りたるを以て去にし十四日近衞公爵母堂及津輕伯爵立合の上本部に掲げたり

◎奥村刀自　病氣未だ平常に復せざるを以て醫師の勸告に從ひ來る廿一日當地出發郷里唐津に歸省し靜養せらるゝ都合なり尚刀自は來年還暦に相當するを以て會長以下評議員より木綿製の紋付一襲及紅模樣の帶一筋むらさきの袴と肴料を添へ刀自に寄贈されたり尚谷子爵夫人は自邸に於て飼育せし蠶糸を經とし緯に木綿を加へ姉君坂本久壽子氏（六十三歲）手織りの羽織壹枚贈與せられ尚京都府幹事諸氏よりは兵士の軍服に用ゐるカーキー色の木綿服一枚寄贈されたり

◎本會の出征軍人慰問品　繪葉書數万枚及「愛國婦人」新聞數千枚を出征軍人慰問の爲寄贈せる事となせり繪葉書は上部に總裁殿下及會長の出征軍人を思ふ御歌を入れ其下部に櫻花に國旗を添へ我が會の徽章を畫きいと優美なるものにして百枚以上は一々寄贈者の姓名を印刷する仕組みなれば會員にて有志の方は下欄の廣告にある如く一月五日までに申込まるれば本部にて其取扱を爲すべし

◎寄附金披露　其後本會への寄附金は左の如し

一金貳百圓　臺北　總督音樂會總代　後藤カツ子
一金百圓　侯爵夫人　松平節子
一金百參拾參圓九拾錢　北海道　三浦雪子外三百名
一金五拾圓　侯爵母堂　松平幾子
一金五拾圓　日本橋區　山内晋子
一金貳拾五圓　英國公使館　ウォーン氏
一金貳拾圓　山形　北島もと子
一金貳拾圓　麹町區　ダアニー夫人
一金貳拾圓　荏原郡　寺島鎗代
一金拾五圓　韓國馬山浦　英人アーモーア夫人
一金拾圓　下谷區　鈴木茂八
一金拾圓　宮崎　岩男三郎
一金拾圓　神田區　金田とく子
一金拾圓　神田區　坂本治明
一金拾圓　下谷區　金井潔子
一メキシコ銀八十弗　清國蘇洲　米人フィアン夫人醵集
一メキシコ銀貳十弗　同　白須ます子

以上寄付の内北島もと子の分は亡兒一周年祭當日の費用を節約し本會へ寄付せられたるものなり

會告

今般本會に於て陸海軍出征軍人慰問の微意を表する爲め繪葉書數萬枚を寄贈致度と存候就ては來る一月五日までに會員有志の方は百枚以上幾枚にても百枚金四拾五錢の割を以て御寄贈方御申込被下度候然る上は一々寄贈者の姓名を印刷せしめ戰地に相贈り可申候也

愛國婦人會本部

◎赤十字社病院慰問　去にし十八日午後二時より本會は澁谷なる赤十字社病院の患者を慰問せり會よりして岩倉會長始め山内、谷兩理事評議員二條治子、板垣絹子、伊東美津子、岡部鉦子、堤常子、松平須磨子、清浦錬子、岩佐純子、長岡芳子、奥村五百子、中山幸子、山脇房子、長井とし子、藤井とく子、鄭濱子。有島幸子、澁谷和知子、菊池咸子、關郁子、顧問小笠原長生、堀内文次郎、會計監督佐藤正の諸氏にして保利分院長の盡力にて患者を一堂に集め會長は慰問の言葉を陳べ奥村刀自は本會の主旨を演說し堀内中佐は本會の美談を陳べ佐藤少將は痛快なる語句を以て兵士の男氣を呼贊せり且つ一般に菓子を寄贈（料にて）せし處患者一同大に滿足の意を表せり尚聞く所によれば同院に入りし患者は初より今日まで既に三萬餘人にし其內死亡者は僅に七十餘名にて成蹟好良なりと云ふ

◎各地支部の狀況

◎東京支部　同支部の催しにかゝる幻燈會は各所到る處盛況にて多くの入會者をも得たり奥村刀自は病ひを力めて連夜出席せられ少時間の演說を試みられしが聽衆は毎に非常に感動せり當部内麻布區笄町田村あき子は病痾の爲榊病院より退院の際聊か看護婦の勞に酬いん爲金五圓を贈與せんとせしも規則上受納せられず依つて其の金圓を支部へ寄附せられたりと云ふ篤志の事なり

◎鹿兒島支部　第二回總會を去月廿日鹿兒島市鶴嶋館第二支店延壽館跡大廣間に於て開會せり其次第は一式次第一鐘にて會員着席第二鐘にて職員着席第三鐘にて來賓着席二に幹事島津さへ子氏開會の辭を陳べ三に主事市來正幹氏事務の報告を爲す四に總裁殿下御寫眞開被一同最敬禮此間君が代五に御諭旨支部長千頭德子捧讀六答辭幹事島津さへ子七御寫眞閉被一同着坐八支部長告辭九來賓俵書記官祝辭太田大佐談話十島津さく子閉會の辭を陳べ尋て城山公園洗然亭及翠月亭に於て園遊會を開けり當日の來會者は六百十九名非常に盛會なりし

◎宮崎支部　同支部長岩男飛佐子は熊本豫備病院患者慰問の爲出張五日間滯在の上親しく各患者を慰問せり而て其報告會を兼ね會員懇話會を去月廿一日宮崎町安樂寺に於て開會せり當日の出席者は百數十名米良主事開會の挨拶を爲し次に幹事塚本りさ子支部の近況を報告し終て支部長患者慰問の狀況を約一時間半談話あり談偶〻患者の慘况に及ぶや會員一同惻隱の情に堪へ兼暗涙に咽べり其席に於て支部長は患者慰藉の爲足袋或は鳥打帽子等を募集し寄贈のことを計りし處一同大に贊同を表したるにより早速蒐集に着手することとなれり

◎京都支部　去にし五日午後一時より支部に於て各區聯合役員會を開けり出席者は幹事贊事七拾名其他三井支部副長山川石井評議員及委員數名參加せり協議事項左の如し

一　各區に幹事及贊事各壹名宛月番を置く事但し二月交代のこと
二　傷病兵見舞として慰問袋を携へ大阪豫備病院へ出張する件
三　來る一月祝賀會開催の件は一月五日午後開催することに決せり
四　出征軍人中貧困者見當に被服給與の件は役員より各二枚宛調製寄附する事に決せり

尚同支部にては大阪豫備病院收容の傷病兵慰問の爲慰問袋を蒐集せしに同情溢るゝ計りにて締切期日（發表より九日間）迄に五千六百四十五個（此見積價格千四百拾壹圓）の多數に達せり仍て本月五日各區聯合職員會を開き抽籤を以て出張役員割を行ひ慰問員百拾貳名にて五ヶ所の分院に到り慰問の言葉を陳べ携帶の袋を夫れ〳〵分配せしに將卒の滿足一方ならず殊に桃山分院に於ては娛樂室に於て殊に慰問員の爲に負傷兵の脚色に成れる戰爭劇「斥候兵離別の場」一幕を演し以て答禮の意を表せられしは開院以來の異例なりしと云ふ

◎山口支部　去月廿六日熊毛郡平生町私立精華女學校內に於て同部幹事部第一回總會を開設せり來會者八百餘名にして非常の盛會なりしと云ふ

◎憐れなる軍人の家族　出征軍人の家族並に遺族が種々悲慘なる狀況に陷る事は屢見聞する處なるが近頃奥村刀自の許へ明日出陣すると云ふ人の妻女が嬰兒を負ひ來り訴へて曰く自分の夫は車夫にて夫婦共々働き漸く其日を過ごし來りしが先頃長女死亡せしにより取敢火葬にだけは附せしも其骨を寺に葬る費用に窮し今日まで家に貯へ居れるが夫は第一國民軍の召集を受け明日出發せんとするに際せり願はくは刀自の力にて埋葬し得るやう斗らひたまへかし尚我が家には九歲の男子一人居り加ふるに此嬰兒を負うては到底生活の途なき故何とか御工夫を賴むと涙ながらに物語りければ刀自もいとゞあはれを催ほし早速某評議員と相談の上嬰兒は福田會に預け遺骨は僧侶に依賴して埋葬することゝ定め一夜の內に適應なる處置を與へられしかば大に喜び爾後は自分鐵槌打ちの職業に從事し生活を營むよし誓ひて立去れりと云ふ

社告

一　歌題　出征軍人を思ふ　〆切り一月十日限り

「愛國婦人」新聞を本會より慰問品として出征軍人に贈らるゝについては來る一月廿日發行の本紙に會員の御歌を掲げ以て出征軍人の心を慰め度候につき右〆切り期日までに御投稿被下度候別に書面を以て御願上げ候方々にも〆切り期日一月十日限りと致し候につき同期日までに御送り被下度候也

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎本紙本年中の要目　本年中本紙が各方面の知名の紳士淑女より得たる處の論説及談話の要目左の如し

◎婦人と慈善事業(四十五號)
◎新年の所感(四十五號)
◎會員に對し希望を陳ぶ(四十六號)
◎時局に對して會員總に望む(四十六號)
男爵 松平正直
陸軍步兵少佐 堀内文次郎
男爵 清浦奎吾

◎日本全國の姉妹方に急告す(四十六號)
陸軍步兵少佐 堀内文次郎

◎評議員方に望む(四十七號)
◎風俗改良論(四十七號)
◎女子と國家(四十八號)
◎岩倉公爵夫人と坊城伯に告ぐ(四十八號)
公爵夫人 岩倉久子
子爵 岡部長職
內閣統計審査官 吳文聰
文學士 下田次郎

◎愛國婦人會員に告ぐ(四十九號)
◎再び會員に告ぐ(四十九號)
◎日露の關係を述べて日本婦人の覺悟に及ぶ(四十九號)
◎戰時に於ける婦人の覺悟と修養(四十九號)
步兵少佐 伊豆凡夫
公爵夫人 岩倉久子
男爵 清浦奎吾
步兵少佐 堀内文次郎

◎戰時に對する婦人の覺悟(五十號)
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十號)
◎日本が戰爭に勝つ所以(五十號)
◎愛國婦人會第三回總會に於ける演說(五十一號)
子爵 松平直敬
評議員 鳩山春子
文學博士 村上專精
衆議院議員 島田三郎

◎三輪田女學校卒業式演說(五十一號)
◎婦人に適職の必要(五十一號)
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十二號)
◎女子大學卒業生に告ぐ(五十六號)
子爵 小笠原長生
伯爵 大隈重信
內閣統計局長 [illegible]
評議員 廣岡淺子

◎戰時の婦人(五十二號)
◎岩崎家の家庭(五十三號)
◎儉約の意義を誤解する勿れ(五十三號)
女子大學校長 成瀬仁藏
日本陸軍步兵少佐 堀内文次郎
子爵夫人 谷くま子

◎女子の職業(五十三號)
◎戰時の女子(五十四號)
◎戰時に於ける婦人の覺悟(五十五號)
◎出征軍人家族慰問の狀況(五十五號)
◎讀者に就いての談(五十四號五十五號)
◎軍人の遺族及び家族慰問に對する注意(五十四號)
農商務次官 和田彦次郎
評議員 有島幸子
文學士 下田次郎
男爵 清浦奎吾
子爵夫人 岡部坂子
評議員 鳩山春子

◎余は極力儉約說を主張す(五十五號)
◎婦人報國の微意(五十五號)
◎戰時の衞生(五十五號)
◎米國の看護婦事情(五十五號)
◎風俗改良論(五十六號)
◎日本人の海外思想(五十六號)
◎遺族扶助に關する統計(五十六號)
◎婦人と讀書(五十六號)
◎英國の篤志婦人リチヤードソン(五十六號)
評議員 濱尾作子
子爵 谷干城
子爵母堂 山地繁子
評議員 濱尾作子
マギー夫人
伯爵 板垣退助
子爵 小笠原長生
伯爵 柳澤保惠
ミス、ウエストン

◎夫人と社交(五十六號)
◎日本は何故に强きか(五十七號)
◎加納子爵の家庭(五十七號)
◎娛樂と遊戲(五十七號五十八號)
◎[illegible]の女子に告ぐ(五十八號)
◎信用組合の話(五十八號)
◎日本の女[illegible]に就いて(五十九號)
ドクトル夫人 川瀬フミ
子爵 長岡護美
伯爵 大隈重信
醫學博士 三宅秀
伯爵夫人 大谷[illegible]子
子爵夫人 加納[illegible]子

◎女らしくあれ(五十九號六十號)
◎[illegible]刀の話(五十九號)
◎最も安全なる貯蓄方法(五十九號六十號)
◎婦人と衞生問題(五十九號六十號)
◎旅順の陷落と好紀念(六十號)
◎支那の女子教育(六十號)
◎貯金をして金を貯へる工風(六十號)
元農商務省保險課長 矢野恒太
文學士 下田次郎
日本女學校教師 小松崎[illegible]
林學博士 川瀬善太郎
內務書記官 留岡幸助
井上友一
文學博士 服部宇之吉

◎義勇艦隊の設置(六十一號)
◎戰爭の紀念(六十一號)
◎歐米婦人界の現況(六十一號)
◎男女交際論及娼妓廢止論に反對す(六十二號)
加藤病院長 加藤時次郎
海軍中將 有地品之允
內務書記官 井上友一
文學士 下田次郎

◎支那の貴婦人(六十二號)
◎戰爭に依つて得たる經驗(六十三號)
◎歐洲婦人界と日本婦人界(六十三號)
子爵 谷干城
文學博士夫人 服部しげ子
評議員 鄉濱子

◎義勇艦隊に就て(六十二號)
◎敢て婦人に檄す(六十四號)
◎軍人家族遺族保護事業について(六十四號)
ドクトル夫人 川瀬ふみ子
子爵 小笠原長生
評議員 廣岡淺子
留岡幸助

◎軍隊寄贈袋について(六十四號)
◎東京支部の新事業(六十四號)
◎米國上流の家庭(六十五號)
◎英國の家庭と我が家庭との比較(六十五號)
評議員 仁杉歌子
男爵夫人 千家俊子
男爵 松平正直
十五銀行頭取 園田孝吉

◎監獄と婦人(六十五號)
◎我國古代に於ける女子の從軍(六十五號)
◎生產組合の話(六十六號六十七號)
◎婦人の活動(六十七號)
◎模範村の話(六十七號)
監獄事務官 小河滋次郎
三浦千獻
農學博士 酒匂常明
評議員 廣岡淺子
內務省地方局 相田良雄

◎貴婦人の自白

(來年より改正せんとする事柄)

●私の針箱の中や手箪笥の內は主人始め家族の者誰れ一人にも見せる事が出來ません別に秘密を納めて居るのではありませんが種々混雜に入り亂れて自分が或一物を出すにさへ多少の考へと時間とを要する程であります來年からは改めて整然として誰にても見せられるやう致したいと思ひます

●私は一の仕事に取懸ると其仕事の未だ終へぬ內に他の仕事に移り纏て又それも打捨て又他の仕事に移り一日ごた〱して多忙のやうでありますが其實何事も出來て居らず年末に大繁忙を來たしました來年からは一時に一事を爲す事に斷然定めたいと思ひます

●私は今日爲さねばならぬ仕事であツてもつい面倒になり明日にても出來ると云ふ考へよりして翌日に仕事を延はします又同一の理由で翌日も延はし遂に仕事が積り積つて山程により年末の今日如何樣とも整理が出來ぬ事になりました來年からは其日に爲す可き事は決して翌日に延ばさぬ事に致したいと思ひます

●私は面倒で手數の懸る仕事となると常に後廻しにして居りました處が誰れも代ツて仕事を片付けてくれる者がありませんから毎日仕事が溜まツて責任が重くなるを覺りました來年からは面倒なる方より早く片付ける事に致したいと思ひます

●私は遊ぶ時間が惜いと云ふ考へよりして遊ぶ時間として別に定めて居りませなんだ故に働く內に遊び遊ぶ內に働き常に紛々として居りました結果仕事がはかどらぬ事を覺りました來年からは遊ぶ時と働く時と斷然區別致したいと思ひます

●私は人から物を賴まれるとつい「否」と云ふ事は云ひ兼ねまして自分の身に餘る事すら容易に請負ひまして後に出來ないで赤面する事が往々あります來年からは始めより出來ない事は「否」との一語を以て答へる考へであります

●私は主人から或困難なる仕事を命ぜられますと其困難に打勝ツて成し遂げて見ようと云ふ勇氣がなく常に無理な注文であると思うて不平を申しますが然し斷然やれば如何なる事でも出來ない事はないと覺りましたから來年からは先づ之を試むると云ふ決心であります

●私は今日は家に不用な品でも後日入用になるだらうとの考へを以て廉いと思ふ物を買込む事があります太物屋の賣出し等にはいろんな物を買ひますが年の暮に至ツても役に立つた事がありません來年からは如何なる廉物でも入用な者で無くては買はぬ事と決心致しました

●新案家計簿記入方

(カルタ形記入法)

內閣統計局審査官 吳文聰

西洋では簿記法も既に古臭くなツて來て近頃ではカルタ形の簿記式が發明されて盛んに行はれて居る世が繁雜になツて來るに從つて段々と簡單なる記帳方法が發明されて來るそこで一家に於て主婦が擔任して居る家計簿の記入方であるが如何に簡便なる帳簿が出來ても之に間違ひなく記入すると云ふ事は困難な事である何時でも勘定合うて錢足らずで帳簿に記入落が出來る每晩記入するとして多少の考慮に時間を要する左ればと申して帳面へ付けた上で財布の紐を解くと云ふ事も間に合はぬ話しである故に私の新案と申すは以上の手數を省いて正確に計算が出來る方法を敎へやうと思ふのである夫は最初に於て左の如き費用の科目別をした袋を作ツて置く袋の代りに抽出しの澤山附た小簞笥を室に備へ置くもよい又別に西洋紙をカルタ形に切ツて幾枚も作ツて置き其カルタ紙に金を支拂ふ度に支拂金額を記入して其袋の中又は箱の中に投入して置くのである(金額だけでなく間違はぬ爲に科目を記入して置てよし)さうして一ケ月の終りに至ツて其の袋から出して記帳すれば決して間違ふ事なく手數も非常に省ける次第である各科目の札を計算して見て一方の科目に多くの出資があると見れば其科目に多く札を入れぬやう翌月から注意して金を使用するやうにするのである左表はエンゲル氏の作ツたものに依ツたのであるが西洋になくて日本にあるものの即ち養親費などは別に設けたらよからうと思ふ其他成るべく費目別は少くする方が便利である

家計支出科目一覽

食料	米、肉類、穀類 / 野菜類酒料
衣料	洋服日本服小供用大人用
住家料	借家料借地料
燃料點燈料	薪、炭、油
衞生費	
教育費	智能開展ノ爲 / 德義開展ノ爲
租稅	
慰安費	

◎泰西婦女訓

◎人は階級の如何を問はず成功にも失敗にも勝つも將た負くるも唯一意其職分を履行して滿足せよ

◎汝の手にて爲すべき事あらば其力の能ふ限りこれを爲すべし獅子は鼠を搏つにさへ其全力を用ふ

◎肉體は朽ち去りて姿を止めざるも善行は長しへに滅ぶる事なく人の世の續かん限り生くるもの也

◎自ら信じて事を爲さんとするには世の反對攻擊に屈せざるの勇氣あるを要す所信を斷行して勿懼

◎意思鞏固なる婦人は爲す事成す其行爲凜乎たる氣內に滿ち不屈不撓は其習慣を成し其感化は偉大也

◎幾多の障害苦痛が我等の前途を遮ることあらばそは天が我等を試みむために下したるものと思へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎新年の評議員會　一月十一日例年の年始互禮會を兼ね評議員總會及東京支部幹事會を開く筈なり

◎評議員會　去にし十四日午後二時より評議員會を開けり當日は非常の降雪なりしにも拘らず雪を冒して來會せらるゝもの非常に多く會長岩倉久子理事近衛貞子谷玖滿子評議員二條洽子松平節子岡部延子千家俊子清浦錬子中山幸子廣岡淺子高木鑠子杉溪茂子堤常子松浦島子濱尾作子山脇房子關郁子有島幸子柳谷千代子片山鑑子佐藤猶子岩佐純子仁杉歌子奥村五百子長岡芳子藤井とく子澁谷和知子松平須磨子鄭濱子の諸氏にして三十八年の豫算案を議決し午後五時過ぎ散會したり

◎故近衛公爵の肖像　本會の創立に對し非常に盡力せられたる故近衛公爵の肖像を畫き紀念の爲之を本部に掲ぐる事となせり筆者は小笠原子爵の令弟にして頗る美事に出來上りたるを以て去にし十四日近衛公爵母堂及津輕伯爵立合の上本部に掲げたり

◎奥村刀自　病氣未だ平常に復せざるを以て醫師の勸告に從ひ來る廿一日當地出發郷里唐津に歸省し靜養せらるゝ都合なり尚刀自は來年還暦に相當するを以て會長以下評議員より木綿製の紋付一襲及紅模樣の帶一筋むらさきの袴と肴料を添へ刀自に寄贈されたり尚谷子爵夫人は自邸に於て飼育せし蠶糸を經とし緯に木綿を加へ姉君坂本久壽子氏（六十三歳）手織りの羽織壹枚贈與せられ尚京都府幹事諸氏よりは兵士の軍服に用ゐるカーキー色の木綿服一枚寄贈されたり

◎本會の出征軍人慰問品　繪葉書數万枚及「愛國婦人」新聞數千枚を出征軍人慰問の爲寄贈せる事となせり繪葉書は上部に總裁殿下及會長の出征軍人を思ふ御歌を入れ其下部に櫻花に國旗を添へ我が會の徽章を畫きいと優美なるものにして百枚以上は一々寄贈者の姓名を印刷する仕組みなれば會員にて有志の方は下欄の廣告にある如く一月五日までに申込まるれば本部にて其取扱を爲すべし

◎寄附金披露　其後本會への寄附金は左の如し

一金貳百圓　臺北慈善音樂會總代　後藤カツ子
一金百圓　侯爵夫人　松平節子
一金百參拾參圓九拾錢　北海道　三浦雪子外三百名
一金五拾圓　侯爵母堂　松平幾子
一金五拾圓　日本橋區　山内晋
一金貳拾五圓　英國公使館　ウオーン氏
一金貳拾圓　山形　北島もと子
一金貳拾圓　麹町區　ダアニー夫人
一金貳拾圓　菟原郡　寺島鑑代
一金拾五圓　韓國馬山浦　英人アーモーア夫人
一金拾圓　下谷區　鈴木茂八
一金拾圓　宮納區　岩男三郎
一金拾圓　神田區　金田とく子
一金拾圓　神田區　坂本治明
一金拾圓　下谷區　金井潔子
一メキシコ銀八十弗　清國蘇州　米人フィアン夫人醵集
一メキシコ銀貳十弗　同　白須ます子

以上寄付の内北島もと子の分は亡兒一周年祭當日の費用を節約し本會へ寄付せられたるものなり

會告

今般本會に於て陸海軍出征軍人慰問の微意を表する爲め繪葉書數萬枚を寄贈致度と存候就ては來る一月五日までに會員有志の方は百枚以上幾枚にても百枚金四拾五錢の割を以て御寄贈方御申込被下度候然る上は一々寄贈者の姓名を印刷せしめ戰地に相贈り可申候也

愛國婦人會本部

◎赤十字社病院慰問　去にし十八日午後二時より本會は澁谷なる赤十字社病院の患者を慰問せり會よりして岩倉會長始め山内、谷兩理事評議員二條洽子、板垣絹子、伊東美津子、岡部延子、堤常子、松平須磨子、清浦錬子、岩佐純子、長岡芳子、奥村五百子、中山幸子、山脇房子、長井とし子、藤井とく子、鄭濱子。有島幸子、澁谷和知子、菊池咸子、關郁子、顧問小笠原長生、堀内文次郎、會計監督佐藤正の諸氏にして保利分院長の盡力にて患者を一堂に集め會長は慰問の言葉を陳べ奥村刀自は本會の主旨を演説し堀内中佐は本會の美談を陳べ佐藤少將は痛快なる語句を以て兵士の勇氣を呼賛せり且つ一般に菓子を寄贈（料にて）せし處患者一同大に滿足の意を表せり尚聞く所によれば同院に入りし患者は初より今日まで既に三萬餘人にし其内死亡者は僅に七十餘名にて成蹟好良なりと云ふ

◎各地支部の狀況

◎東京支部　同支部の催しにかゝる幻燈會は各所到る處盛況にて多くの入會者をも得たり奥村刀自は病ひを力めて連夜出席せられ少時間の演説を試みられしが聽衆は毎に非常に感動せり當部内麻布區弁町町田村あき子は病痾の爲榊病院より退院の際聊か看護婦の勞に酬いん爲金五圓を贈與せんとせしも規則上受納せられず依つて其の金圓を支部へ寄附せられたと云ふ篤志の事なり

◎鹿兒島支部　第二回總會を去月廿日鹿兒島市鶴鳴館第二支店延壽館跡大廣間に於て開會せり其次第は一式次第一鐘にて會員着席第二鐘にて職員着席第三鐘にて來賓着席二に幹事島津さへ子氏開會の辭を陳べ三に主事市來正幹氏事務の報告を爲す四に總裁殿下御寫眞開被一同最敬禮此間君が代五に御諭旨支部長千頭德子捧讀六答辭幹事島津さへ子七御寫眞閉被一同着坐八支部長告辭九來賓俵書記官祝辭太田大佐談話十島津さく子閉會の辭を陳べ尋て城山公園洗然亭及栗月亭に於て園遊會を開けり當日の來會者は六百十九名非常に盛會なりし

◎宮崎支部　同支部長岩男飛佐子は熊本豫備病院患者慰問の爲出張五日間滯在の上親しく各患者を慰問せり而て其報告會を兼ね會員懇話會を去月廿一日宮崎町安樂寺に於て開會せり當日の出席者は百數十名米良主事開會の挨拶を爲し次に幹事塚本りき子支部の近況を報告し終て支部長患者慰問の狀況を約一時半談話あり談偶ゝ患者の慘況に及ぶや會員一同惻隱の情に堪へ兼暗涙に咽べり其席に於て支部長は患者慰藉の爲足袋或は鳥打帽子等を募集し寄贈のことを計りし處一同大に贊同を表したるにより早速蒐集に着手することゝなれり

◎京都支部　去にし五日午後一時より支部に於て各區聯合役員會を開けり出席者は幹事贊事七拾名其他三井支部副長山川石井評議員及委員數名參加せり協議事項左の如し

一各區に幹事及贊事各壹名宛月番を置く事但し二月交代のこと
二傷病兵見舞として慰問袋を携へ大阪豫備病院へ出張する件
三來る一月祝賀會開催の件は一月五日午後開催することに決せり
四出征軍人中貧困者見當に被服給與の件は役員より各二枚宛調製寄附する事に決せり

尚同支部にては大阪豫備病院收容の傷病兵慰問の爲め慰問袋を募集せしに同情溢るゝ計りにして締切期日（發表より九日間）迄に五千六百四十五個（此見積價格千四百拾壹圓）の多數に達せり仍て本月五日各區聯合職員會を開き抽籤を以て出張役員割を行ひ慰問員百拾貳名にて五ヶ所の分院に到り慰問の言葉を陳べ携帶の袋を夫れ〳〵分配せしに將卒の滿足一方ならず殊に桃山分院に於ては娛樂室に於て殊に慰問員の爲に負傷兵の脚色に成れる戰爭劇「斥候兵離別の場」一幕を演じ以て答禮の意を表せられしは開院以來の異例なりしと云ふ

◎山口支部　去月廿六日熊毛郡平生町私立精華女學校内に於て同部幹事部第一回總會を開設せり來會者八百餘名にして非常の盛會なりしと云ふ

◎憐れなる軍人の家族　出征軍人の家族並に遺族が種々悲慘なる狀況に陷る事は屢見聞する處なるが近頃奥村刀自の許へ明日出陣すると云ふ人の妻女が嬰兒を負ひ來り斷へて曰く自分の夫は車夫にて夫婦共々働き漸く其日を過ごし來りしが先頃長女死亡せしにより取敢火葬にだけは附せしも其骨を寺に葬る費用に窮し今日まで家に貯へ居れるが夫は第一國民軍の召集を受け明日出發せんとするに際せり願はくは刀自の力にて埋葬し得るやう斗らひたまへかし尚我が家には九歳の男子一人居れり加ふるに此嬰兒を負うては到底生活の途なき故何とか御工夫を頼むと涙ながらに物語りければ刀自もいとゞあはれを催ほし早速某評議員と相談の上嬰兒は福田會に預け遺骨は僧侶に依賴して埋葬することゝ定め一夜の内に適應なる處置を與へられしかば大に喜び爾後は自分も棒打ちの職業に從事し生活を營むよし誓ひて立去れりと云ふ

社告

一歌題　出征軍人を思ふ　〆切り一月十日限り

「愛國婦人」新聞を本會より慰問品として出征軍人に贈らるゝについては來る一月廿日發行の本紙に會員の御歌を掲げ以て出征軍人の心ろを慰め度候につき右〆切り期日までに御投稿被下度候又書面を以て御願上げ候方々にも〆切り期日一月十日限りと致し候につき同期日までに御送り被下度候也

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎日本女子大學校 同校は今回愈々法人組織になし且つ來年より新たに教育學部を新設し女學校教員を養成する計畫のよしにて去月廿八日森村市左衛門氏は其擧を賛し五万五千圓を寄附し之に依つて其礎を作り更に校長成瀬氏は大隈、西園寺、澁澤、三井、廣岡其他の創立委員に計り基本金六万圓をこれ等の諸氏より募集し十一万五千圓を以て新たに教育學部を起すよし森村氏の寄附狀は左の如しと云ふ

森村豐明會員なる下名等は深く貴校の教育事業に同情し幾に多少の資を致して贊助の意を表し候處刻下我邦前古未曾有の時局に際し深く國家の將來を慮かり候時は我等國民が講究經營すべき幾多の事業前途に横はり候得共就中國民教育の基礎たるべき女子教育の今一層有効切實ならん事を認むものに有之且つ過ぐる日帝國大學に於て文部大臣に賜ばりたる御沙汰を拜して轉た感激の至りに不堪此際聊か國民の本分を盡し度思考罷在候折柄貴校に於て教育學部開設の計畫あり其主義方針とせらるゝ所に關し下名等に示されたる貴下の意見書は大に下名等の感を同うする所に有之國家百年の大計に裨補あるべきを信じ兹に別紙目錄の通り(金五万五千圓)貴校に寄附し教育學部の費途に供し度幸に貴校計畫實施の一助と相成候はゞ下名等の深く滿足する所に御座候右得貴意度如斯御座候敬具(明治三十七年十一月廿八日)

◎本年中慈善界の消息 本年中に於ける慈善界は主として陸海軍の軍人に對して活動せり而して其多くは婦人の手に依つて營まるゝに至りしは特に注目すべき現象なり其重なる者を左に掲げん但し本會及本會支部の催しは次號に詳記せん

着手年月	性質	催主	事項	場所
三十七年四月	慈善	婦人報國會	軍人の被服縫製	東京麴町有樂町
三十七年四月	授產	軍人家族授產婦人會	仝	東京赤阪檜町
三十六年一月十五日	仝	海軍下士卒共勵會	軍服及軍器作製	横須賀軍港
三十七年八月	仝	仝	仝	呉軍港
三十七年二月	慈善	軍人家族慰問婦人會	留守家族慰問及金員贈與	東京麴町永田町
三十七年四月	仝	婦人矯風會	慰問袋	東京麴町番町
三十七年八月	仝	日本橋婦人會	仝	東京日本橋濱町
三十七年十月	仝	淺草婦人會	仝	東京淺草區役所
三十七年十月	奉公	海事協會婦人部	義勇艦隊製造	東京麴町有樂町
三十七年四月	慈善	女子英學塾	恤兵靴下	東京麴町元園町
三十七年四月	慈善奉公	大日本女學會	負傷兵帽子作製國庫債券應募	東京麴町下二番町
三十七年十月	慈善	令女教會	靴下恤兵	東京京橋區本願寺內

◎各種婦人團體催しの概況

◎婦人報國會 開戰後直ちに此事業に着手せられたる者にして其目的は軍人の被服を縫製し其得たる費用を恤兵部に獻納せんとするにあり專ら谷子爵夫人及び山梅子爵母堂の盡力にて隆盛を究めつゝあれり

◎軍人家族授產婦人會 軍人の家族に事業を授くる目的にて設立せるものにして始め麻布霞尾町に事務所を置き兵士のシャツ類洗濯を始めしが段々今日にては進步し軍人のシャツ類服類を縫製し其賃金を與へ獨立自營の途を立てる計畫にて事務所を赤阪區檜町に移し此處にて專ら授產中なるが目下多くの軍人家族來集し中々盛況を呈し居れり發企者は本會幹事江副くま子岡田靜子服部文子等の諸氏なり

◎海軍下士卒共勵會 此會は戰爭以前より横須賀軍港にて海軍士官の有志婦人の設立にかゝるものにして其目的は海軍の下士卒の有志家族を集め裁縫部信號旗及び和服裁縫部雜襲部の三部を置き盛んに獨立自營の途を計り 皇室よりの寄附金等ありていよく擴大に趣けり呉港にあるものも同樣の目的なり

◎軍人家族慰問婦人會 軍人の遺族を保護するには既に愛國婦人會あり然れとも出征軍人の家族を保護する會合なきは大に遺憾なりとの理由の下に我が會を除くの外都下各婦人會連合の許に成立せし會合にして一時は非常の成蹟を以て發展せり其目的は貴婦人自ら家族を慰問し同情を寄せ貧困なりと認むる家族には月々幾分の補助金を與ふる仕組なり

◎婦人矯風會 最も早く慰問袋の調製を企てしは同會にして其袋の中には禁酒禁煙の事項等をも印刷して一方には會の存在を社會に紹介する事につとめたり今尚專ら募集中にて最初より多數の袋を軍隊間に分ち大に好評を得たり

◎日本橋婦人會 同會は主として本會員の有志方にて組織せられたるものなるが一致團結して働かれ其働きも目覺ましきものあり慰問袋を紙にて製し尤も簡單なる工夫を用ゐ拾万袋を作製し既に其半數は戰地に送り其半數も調ひ何時にても送るべき用意調ひ居ると云ふ

◎淺草婦人會 日本橋婦人會に眞似たる慰問袋を調製し是れ又種々なる方面より寄贈を受け多數調ひ居れりと云ふ

◎海事協會婦人部 是れは軍人の家族等を救ふ目的には非ずして海事協會の一部の事業として發表せる義勇艦隊創設の目的に贊同を表し婦人の團結を作り大に盡力する計畫のよし設立日尚淺くして見る可きものなしと雖も大隈伯爵夫人等は專ら盡力せらるゝよし

◎女子英學塾 本會の評議員津田梅子氏大山侯爵夫人塾女新聞等の催しにて第一回は襪卷を調製して出征軍人に贈りしが尚引續きて靴下を作製し出征軍人に贈る計畫中なり

◎大日本女學會 本發行所と深き關係ある同會にては開戰後直ちに戰時國債募應紀念義捐金を募り國庫債券に應し又軍隊傷病者用帽子調製に盡力し既に二千六百十七個を寄贈せり

◎令女教會 同會は西本願寺に屬する教派の婦人たち打より佛教を講聞する會なるが本年十月頃に至り其組織を一層擴張し婦人雜誌の出版等を爲し一方にては軍人慰問の爲め靴下調製中なり

◎戰況概報

◎旅順方面 二百三高地を占領し港內港外の敵艦艦隊は全滅に期したるは國民の等しく慶賀する處なれと旅順全部の陷落は未だ日時を要すべしと云ふ

◎沙河方面 敵味方互に塹壕を穿ち對陣中なるが敵兵は奉天附近に日々增加の模樣あり我軍に於て攻擊的態度を採るは餘程困難なる樣子なりと云ふ

◎戰爭逸話

◎敵陣の女丈夫 名をラトンコロトキーウヰツチユと云ふ其人を尋れて露軍中の旅順に來り自ら男裝して兵士となり各處の激戰に參與し常に目的を遂し其人に邂逅したるが其れ十月十六日を以て我砲彈の下に斃れぬ露國の將士皆に飲泣せりと云ふ

◎敵前の豚狩 沙河の對陣に於て敵味方互に睨み合ひの最中兩陣に於て豚狩りを始めたり敵の陣地に近き豚は敵の爲に射留められ味方に近き豚は味方之を捕ふ中原の豚誰れの手に落つるを知らず雙方傍觀して互に妨害せざりしと云ふ

◎捕虜敵に降伏をすゝむ 旅順要塞伍長イワナーチ我軍に投降し我軍の優待に感じ敵の同胞をも助けんとの意思を以つて其砲壘により頻りに說話を試みし處敵は日本兵にして露語を能するものならんと考へ容易に應ぜず双方押問答の末敵兵の日く汝眞の投降露兵ならんには試に 食前の讃美歌を唱へよと、イワナーチ直ちに聲に應し朗かに之を歌ふや始めて其の投降兵なるを覺りし模樣あるにより彼れは日本軍隊の投降者を優待する有樣を陳べ頻りに投降を勸告せりと云ふ

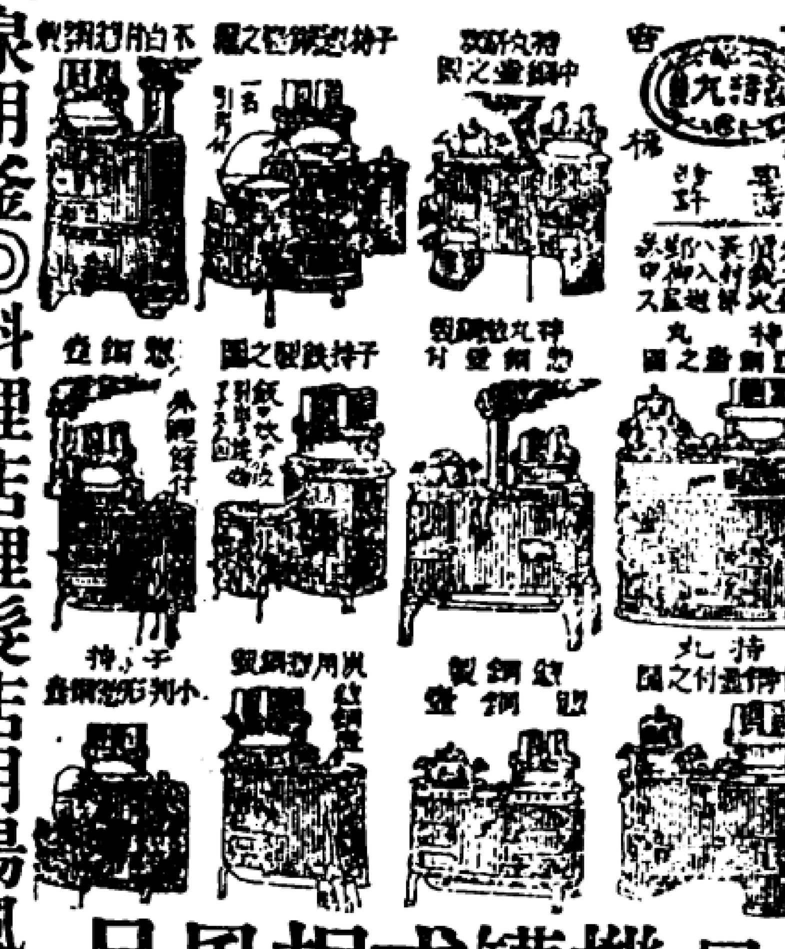
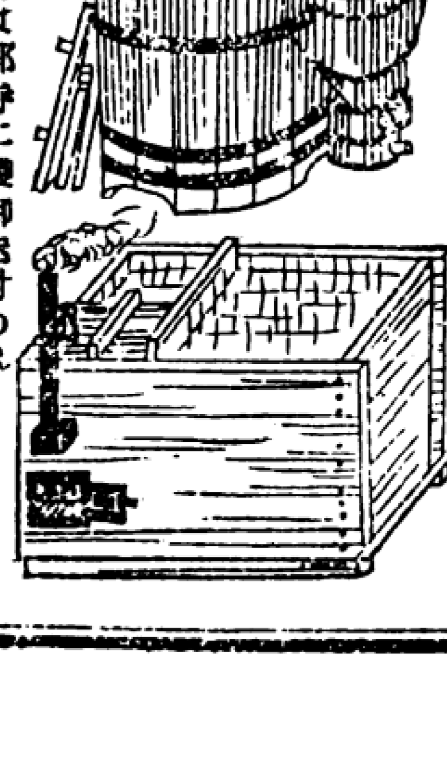
戰捷紀念模樣半ゑり
ゑりま吉
日本橋ふきや町電話浪花千二百七十番

女子高等師範學校教授 文學士 下田次郎氏著
女子教育
菊版七百九十二頁 定價金貳圓
女子の身體及び精神の研究を基礎として新女子教育を說けるもの歐米女子教育の歷史及び現況亦詳述せらる、本邦唯一の大女子教育書なりこ
發兌元 東京市日本橋區本町三丁目十七 金港堂書籍株式會社

据風呂調製 八木藤吉

寫眞撮影 淺草公園 江崎

弊店リボン部新案
勅題模樣リボン 新年の山 一吋巾にて地は山連き白茶、海髮模樣地、色は時、鶯茶、葡萄鼠、古代牡丹、淺黃、藤、日和、 曲一尺六錢五厘
戰捷紀念 赤十字リボン 一吋巾にて地は桐に鳳凰模樣赤十字連き地色は白、白茶に藤色模樣 (郵券代用一割增)曲一尺十一錢
◎右二種は優美高尚なる新案模樣なれば令孃用歲暮年玉に適當外に舶來並に和製リボン新着見本送料三十錢御返却の節は現金買戾し
東髮用舶來花東サイドコーム
ヘヤーピン襟留數千種新着
鼈甲小間物商
神田須田町十番地
三ツ井屋
(電話本局二〇七六番)
●神保町東明館內支店
●新橋博品館內支店

第五回博覽會 賜褒賞
專賣特許 竈

同 機罐式据風呂

定價表御入用の方は郵券二錢御送付あれ
◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱
製造 日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 名和商店
發賣元 神田區和泉橋通松永町十八番地 名和商店 電話浪花千百七十七番

商標 高木
官許 清心丹 懷中要藥
本舖 高木與兵衛
本劑は近頃同名又は類似の藥各地に夥多相見え候に付人魚の商標と高木の名稱篤と御認の上御求めあらんとを乞ふ

家庭之友
十二月發行 迎年準備號 要目
▲家計を健全にする工夫……石黒男爵
▲歲暮年始の贈り物……佐治實然
▲正月料理……山脇房子
▲育兒一年間並に育兒問答……宇山錄子
▲家政問答……井上友子
▲除夜會(附家人の癖を一つ宛矯す事)……羽仁元子
▲福袋(おめでたう、かあさんより)▲子供の日記(心を靜にして正直にお書きなさい)▲軍人の留守宅▲負債に關する經驗▲家計簿の勸め▲健康の年(附、清潔の事)
附錄 迎年準備日課表並に豫算表
定價金五錢郵稅五厘一ケ年郵稅共六拾錢 見本郵劵六錢
東京本郷區駒込西片町十番地 內外出版協會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意匠登錄既願第七三七六號

國勝しようる

尙本品は各毛織物店及洋物店に有之候間御一覽被下度候

シルクショール　毛ラッコ織膝掛

ネル地織膝掛　毛布類

フランネル類

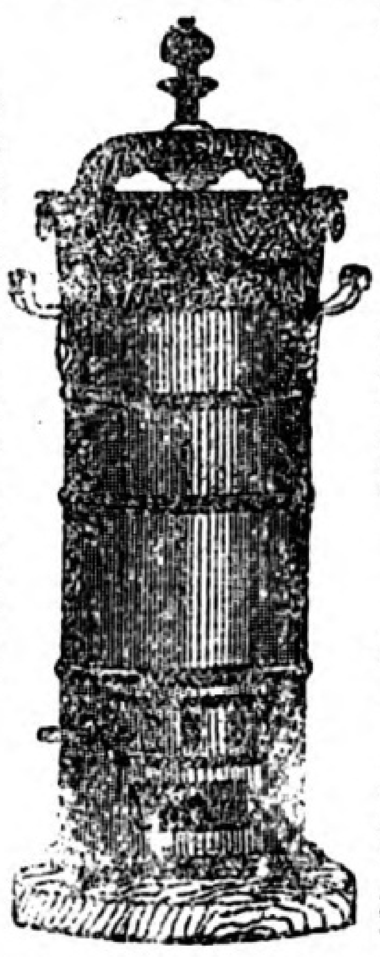
本品は絹裏製にして最も優美高尙の品に有之候

右之通各種新荷着品取揃申候

東京市本町二丁目
中喜ネル店
電話特本局七五〇

特許 空氣暖爐 は少量の炭火を以て 空氣の作用 に依り强烈なる温熱を發する 世界唯一 の暖爐なり

◎本器に一度火を投入せば更に手數を要せず十五時間以內同樣の溫度を保つ故客室事務室は勿論寢室又は病室に用ひ至極妙にして永く室內に置くも火氣にのぼせる憂更になし



特製一個金六圓二十錢
並製一個金五圓四十錢
荷造費箱代一個金四十錢申受候

◎東京大阪京都橫濱は本支店出張所へ電話又ははがきにて御報次第持參可仕候

◎本器實物寫眞入說明書は御報次第送呈す

製造發賣元
東京市淺草區諏訪町一番地（特電話下谷八百三十二番）
小原商店

橫濱市福富町一丁目五番地　京都市四條東洞院東入
小原商店本店

大阪市南區安堂寺御堂筋北入　衣川方（特電話東四百六十二番）
小原商店支店

小原商店橫濱出張所
小原商店京都出張所

良藥にして口に甘し

たんせきに 淺田飴（あさだあめ） 空腹（すきはら）にめし

從四位淺田宗伯先生直傳 淺田飴

定價
金五拾錢
金參拾錢
金貳拾錢
金拾錢

本家 東京神田鍛冶町 大阪北久寶寺町 堀內伊太郎

本品全國到る處の藥店に販賣す

西川商舖牛豚肉販賣 謹告

品質佳良無比類　價廉我店所最勉
配達迅速而正確　夏季殊勉其防腐
普通配達日三回　市內何處不厭遠
若有臨時急用事　走自轉車而直辨
地方配達有便法　特勉西洋料理用
請試購而評其味

價格 左ニ

牛肉百匁	円
ヒレー	50
ロース	45
ラン	38
ステキ	38
イチホン	38
ヒキ肉	30
ブリスケ	22
ハラスープ	16
スネスープ	20
尾	15
ケンネン	05
舌	42
ケンネン油	14
ヘット	16
豚肉百匁	
上等	20
並等	18
チャプ	14
ヒキ肉	16
油	16

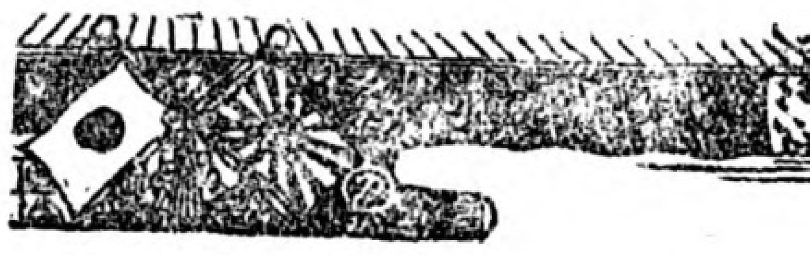
小石川表町廿一番地　電話番町六五九　西川本店

本郷區駒込東片町五番地　電話下谷二三七一　西川支店

品質純良
意匠嶄新
染色注意

御注文に應じ候ハ
遠近不問迅速
發送致し候

神田區表神保町（小川町通り）
伊沢呉服店
電話本局二三一七



東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番

小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐內町 美濃磯佐內町支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

醫院案內

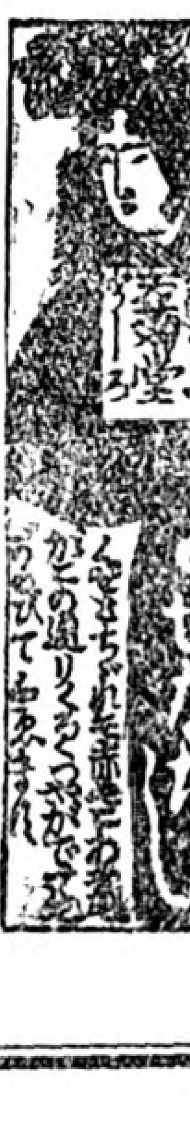
婦人科產科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎（每日午前診察）
副院長 醫學士 久保德太郎（每日夕刻診察）
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

看護婦の需に應ず
東京看護婦協會
神田區錦町參、貳（電本三三一四）

院長 醫學士 烏山南壽次郎
烏山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

婦人科外科
◯診察午前 ◯入院隨時
院長 ドクトル 兒玉林平
兒玉病院
東京駿河臺鈴木町七番地
○電話本局百七番○

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
電話下谷七一八番



毛の髪を能くする發明案內

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店
◎東京堂 神田區表神保町三番地
◎東海堂 京橋區銀座四丁目

油染油垢でも揉まずに脱る奇代の原料

世界無比 新發明 英國製ワッセル

◎此ワッセルは湯一升に二匁（小盃へ半分）の割合にて溶解し洗濯物を凡貳時間浸し揉まずに置き後水にて洗へば自然に脱ます白地の着物シャツ足袋等には石鹸より數倍の効用があります
◎婦人の髪は一匁五分（小盃へ半分位）を一升餘の湯に溶解して洗へば玉子と同様の効用があります脂肪多き身躰に常に使用すれば皮膚を密にします尤も水虫糸か手のあれる事は決してありません
◎食器臺所道具は勿論戸棚板の間の拭掃除にも有効です絹木綿毛織物を晒すに至極妙です又硬水を軟水にする特効があります蒸汽管の鑵石も奇妙に除去ます

芳香ワッセル

◎此ワッセルは香料其他衛生に適する各種の原料とを加味せしものなれば朝夕御用ひの方に香氣馥郁として色を白くし細て皮膚の患にかゝるとなし又おしろい下を用ひずして御化粧の出來る事妙なり

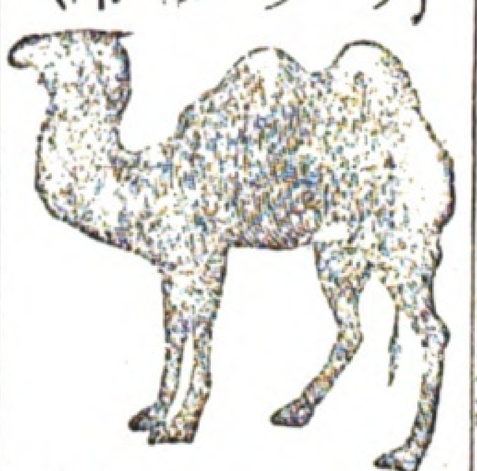
ワッセル水　ワッセル石鹸

◎此品も芳香ワッセル同様の有効品であります論より證據一度御用ひあれば其効能はすぐ知れます
◎歳末年始進物用好適當品

英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌あらい芳香ワッセル製造元
東京京橋區卅間堀三丁目河岸
三友商會
（電話新橋千七百十二番）

費用と手數を省き無害有効の洗淨品

「ラクダ印」



ラクダ印麝香石鹸（麝香石鹸）ハ高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故壹度使用せバ其香氣身体ハ元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至迄うつり香いたし五日間ハ馥郁としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる特點を有す
○定價大形廿錢 小形拾錢〔熱心勉強なる和洋小間物化粧品店にて必ず販賣せり〕
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地芳香藥種問屋
井上太兵衛

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番

定期預金 六ヶ月以上 年五分三厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

しらが赤毛の人に告

定價小瓶一組五拾錢中瓶一組壹圓送料十錢
該液劑（媒染液揚染液）は獨逸國醫學博士ビース氏の新發明になり從前有ふれたる白毛染粉とは異り使用方は極簡易僅々十分間に眞黑色となり數月間不變化の功力を有し皮膚に無害なるは小店の保證する所也白毛赤毛の方は御試用の上不思議の功能を知られよ明細書希望者は郵券二錢封入申込あれ
發賣元 東京市京橋本材木町三ノ四 岡田商店

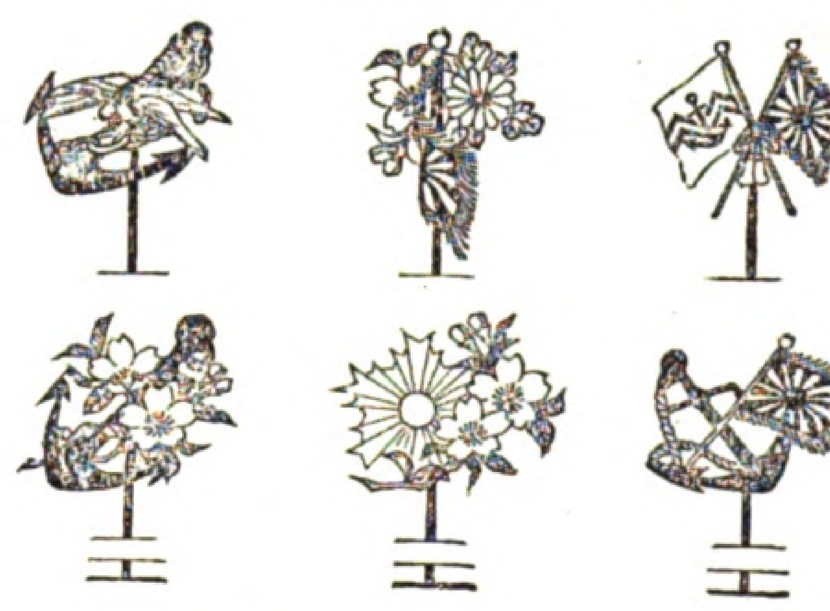
東京 大和屋
特別製參拾五錢 大瓶貳拾錢 中瓶拾錢 小瓶六錢

めりんすしんがらありぎれ
大見切大安賣
人形町通住吉町
目印赤のれん おばなや

登錄商標 水晶おしろい
薔薇麝香入
無毒薄化粧
東京通塩町 大和屋 賣捌
大瓶金貳拾五錢 小瓶金拾貳錢

從十三日歳暮中
だらく大賣出し
御勅題新年山 半ゑり帶揚 景品進呈
○特優等半ゑり三掛組合せ大見切壹圓貳圓壹圓半 ○福箱壹圓五拾錢に有
○肩掛○日本縮○占領ひも○男襟卷○襦袢袖
○羽織片裏○長襦袢○戰捷ネクタイ○頭巾地
○勅題戰捷形帛紗○まげ形チエリー洗粉袋入
新橋竹川町十二番地 電話新橋二〇二七 本店 ゑり治
神田表神保町壹番地 電話本局九五二 支店 ゑり治

戰勝紀念ピン



金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價 純銀製一個金三十五錢以上 餘は御好み次第迅速調製可仕候
手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋裝に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候
宮內省御用達
東京市下谷區池の端仲町 玉寶堂
電話下谷 特九六五番 一二四四番

空前の大好評無比の大歡迎

寫眞版四拾枚

紙質佳良 印刷鮮明
◎大本營寫眞班の特派員寫眞師尾庄司の旅順攻圍軍戰地寫眞秘藏寫眞及び歐米畫伯の大傑作を掲載せり并に我社獨得の珍品極て豐富

征露寫眞畫帖

◎第六編（十二月十七日發行）

▲常宮周宮兩皇女殿下御肖影
▲皇后陛下赤十字病院に負傷將士を見舞はせらるゝ光景
▲沙河逆襲の敵を撃退せんが爲め我砲兵及歩兵前進の寫眞
▲遼陽附近の敵壘破壞の寫眞
▲遼陽に於ける我歩兵の猛戰
▲遼陽に於ける敵の掩蓋
▲敵の構設せる大規模の狼穽
▲進軍途上林中假設の馬撃場
▲旅順松樹山上の分捕速射砲
▲旅順背面坑道内部の寫眞
▲水師營砲壘中の魚形水雷
▲旅順へ通ずる水道鐵管破壞
▲旅順敵前穴居の寫眞
▲黑溝臺遭遇戰軍團の實景
▲黑木軍の風流なる進軍
▲有史以來の大海戰實景
▲黑鳩公の大退却實景
▲露兵雪中進軍困難の實景
▲我兵高粱中に奮戰する光景
▲痛快なる我自轉車傳令使
▲アレキシーフ榮華の夢

記事
▲旅順攻圍軍偵察隊危險を冒して東鷄冠山砲臺へ迫る實景
▲黑木軍山中酣戰の寫眞
▲拙劣なる敵の銃砲戰寫眞
▲戰場にて彈丸分配の寫眞
▲我歩兵の掩護物と敵散兵壕
▲我特別砲隊砲列を敷く寫眞
▲敵國首府の風光
▲世界の注目點たる奉天府
▲戰地兵站部の小景
▲重砲と野砲
▲露兵の僞砲
▲戰時逸話あり出征將校のポンチ繪豐富

毎月一回發行 一冊貳拾錢郵稅貳錢 三ヶ月分六拾錢郵稅共 半ヶ年分壹圓拾七錢郵稅共
東京麴町區有樂町三 實業之日本社

婦人界の寶珍
女子家庭訓
◎家政を掌る婦人は勿論將來家庭を作るべき女學生の好指針!!
全一冊正價卅五錢 郵稅六錢切手代用一割增
東京麴町區有樂町三 實業之日本社發行

◎るいれき其結核性の療法は本藥服用に限る
製藥本舖 東京神田區鍛冶町三〇 東光堂
特約 日本橋區本石町 電話本局五八八 熱田彦兵衛
販賣 同室町三丁目 電話本局一三九 島武商店
外各地藥店取次販賣す

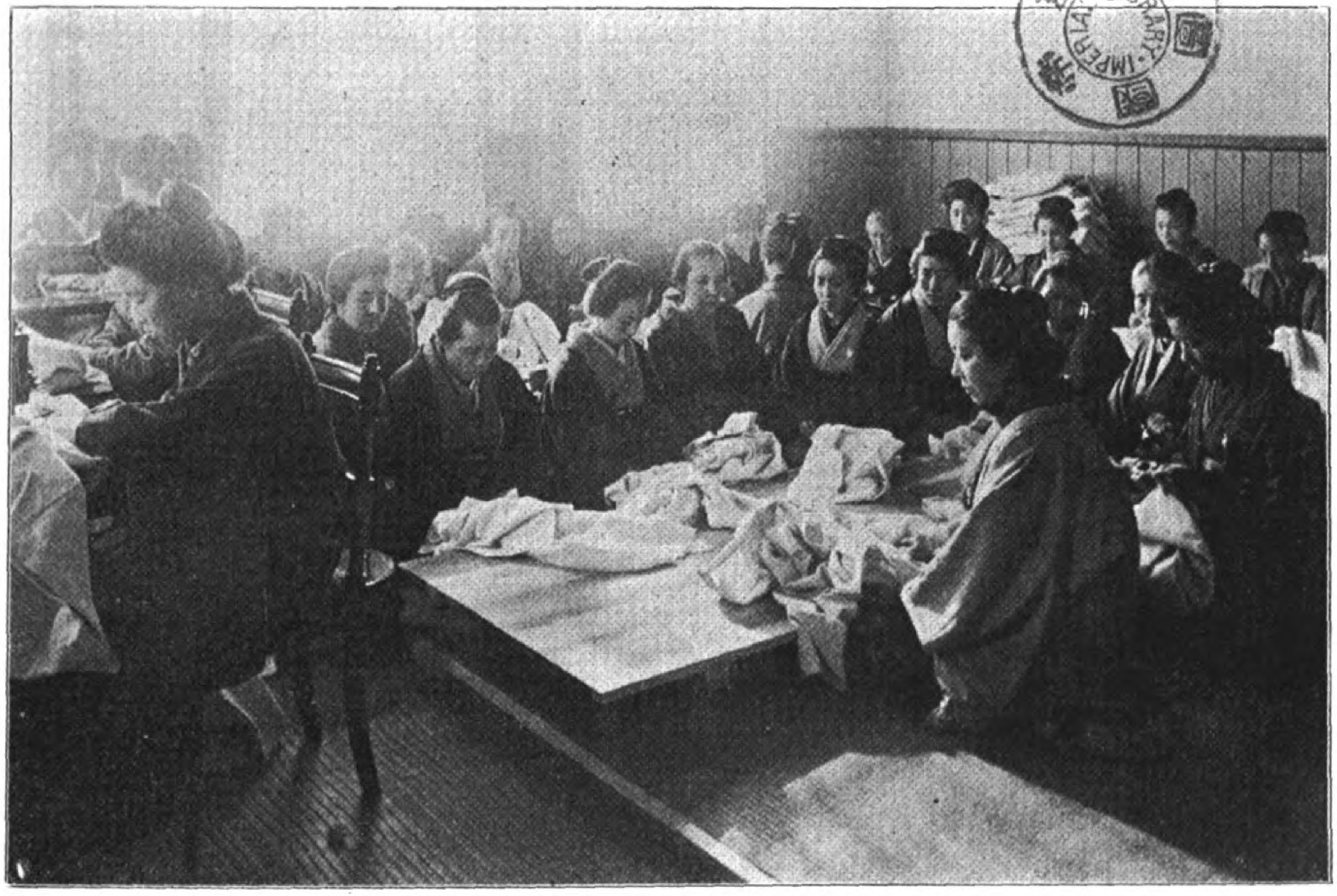
登錄商標
金線草千錢
◎定價一磅入（約九十日分）金三圓、遞送費二十錢 ▲半磅入金一圓五十錢遞送費十五錢
◎金線草私言發見と其効能并に醫士の報告患者の實驗等は本書に詳か也（定價郵稅共十二錢）

明治三十七年十二月二十日發行（毎月五日二十日二回）
發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會内
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十七年十二月廿日發行（毎月五日廿日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

IMPERIAL LIBRARY



愛國婦人會東京支部裁縫部作業の寫眞

（說明　本寫眞は貴婦人たちが軍人遺家族と共に軍服を裁縫し一は其工料を以て遺族に救助し一は之を以て自活の途に供する爲めに作業中の實景なり）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN